

1 地区研究集会の概要

- (1) 期日 平成28年10月6日(木)
- (2) 会場 五泉市立愛宕小学校
- (3) 日程 13:00~13:30 受付
13:30~14:15 開会式
14:15~14:30 移動・休憩
14:30~16:10 分科会
16:10~16:15 閉会式

2 開会式・部会協議の概要

(1) 開会式

来賓として、下越教育事務所長 佐藤政志様、新潟市教育長 前田秀子様、五泉市長 伊藤勝美様、五泉市教育委員会教育長 井上幸直様、阿賀野市教育委員会教育長 岩村弘一様、阿賀町教育委員会教育長 清野一男様、新潟市教育委員会教職員課長 吉田隆様、県中学校長会副会長 濱中力也様をお迎えした。

開会式では、近藤朗会長が、「県民の信頼を勝ち取るための校長の役割は大きい。明確な目標を立て、創意工夫のある学校運営をしていく必要がある。そして、社会を生き抜く力、社会を創り上げる力を身に付けることが求められている。」と力強く挨拶を行った。また、来賓の下越教育事務所長 佐藤政志様からは、「児童生徒の自己肯定感が低い傾向にある。学校と地域が連携し、双方向で子どもを育てていく意識を高める必要がある。」と激励された。また、新潟市教育委員会教育長 前田秀子様からは、「しなやかにたくましく人生を切り開いていく力が求められている。地域とともに歩む学校づくりを推進してほしい。」という励ましの言葉をいただいた。

(2) 部会協議

開会式終了後、10部会22分科会に分かれて研究協議を行った。確かな実践に基づいた意見交換によって成果と課題が明確になった。

第1部会 学校経営

1 主な協議内容

- 校長の教育ビジョンを組織全体で共有するには、どのようにしたらよいか。
- 共有したビジョンを実現させるために、どのように組織力を高めていけばよいか。
- 組織的・継続的な学校改善を図るために、学校評価をどのように生かせばよいか。
- 家庭・地域との連携協力などによる学校づくりを推進するために、学校評価をどのように生かせばよいか。

2 課題等

- 校長だけでビジョンを作るわけではない。他の教職員や保護者・地域の意見、評価結果を基に学校全体で共有する必要がある。
- 校内において部会を設定することで共有できるが、多忙感が大きい。具体化する場や会議の精選が大切である。
- 地域、保護者の願いを校長が敏感に感じ取り、ビジョンに盛り込んでいくことが課題である。

第2部会 教育課程

1 主な協議内容

- 学習意欲の向上及び学習規律・学習習慣の定着を図るために、どのように取り組むか。
- 個に応じた指導、きめ細かな指導を実現するために、どのように教育課程を工夫・改善していけばよいか。
- かかわり合いを通して互いのよさを認め合う関係を育むために、どのような取組を推進するか。
- 豊かな人間性を育む教育課程を編成するために、どのようにリーダーシップを発揮していけばよいか。

2 課題等

- 学習意欲の面では、授業改善を通じた教師の指導力の向上、研修の充実が不可欠である。
- 授業のユニバーサルデザイン化、指示の仕方、課題の焦点化等の工夫が必要である。
- 核となる教育活動を中心に、バランスのとれた教育課程になるよう工夫・改善していく。

第3部会 現職教育

1 主な協議内容

- 自校の課題解決に向け、参画意識を高め、指導力を向上しようとする教職員を育成するための具体的方策・取組はどうあればよいか。
- 教職員の育成・指導力の向上を目指す研修体制の構築において果たすべき役割とは何か。
- 学校課題を意識させ、ミドルリーダーとしての役割を自覚させる手立てはどうあればよいか。
- ミドルリーダーの組織的・計画的な育成を図る校内体制はどうあればよいか。

2 課題等

- 若手職員、中堅職員の育成は、誰が、どのように実施していくのかを明確に示していく必要がある。
- 校長のリーダーシップで、校内研修体制や内容を変えていくことが重要である。
- ミドルリーダーが職員に指導する場を計画的に設定し、仕事に集中できるような配慮も必要である。

第4部会 教育課題①（生徒指導）

1 主な協議内容

- 自己有用感をもたせ、豊かな人間関係を築くために、どのように教育活動を組織し、教職員の意識を高め全校体制で推進していくか。
- 豊かな人間関係を築く教育活動の企画・運営面において、どのように保護者・地域等（近隣の学校や団体を含む）との連携・協働を図っていくか。
- 社会性の基盤となる規範意識を育むために、どのように教職員の意識を高め、教育活動の改善を図っていくか。

2 課題等

- 教師の力量の問題が大きい。若手を中心に研修を充実させることが重要である。
- 地域の人間関係の希薄化、世代交代の中で、学校は、どのような距離間でつながっていくかが問題である。
- 取組内容の重点化と職員の意識の焦点化が課題になる。

第5部会 教育課題②（道徳教育）

1 主な協議内容

- 豊かな心を育むために、どのような視点でリーダーシップを発揮していくか。
- 道徳的実践力の育成のためにどんな方針を示し、どのように指導していくか。
- 課題を共有し、道徳授業に保護者や地域の人々の参加や協力を得るために、どのように家庭・地域に働き掛けていくか。
- 豊かな心を育成する道徳教育を地域全体で推進するために、どのようにリーダーシップを発揮していくか。

2 課題等

- 授業や活動の振り返りを大切にして、全校体制で自尊感情を高めていくことが必要である。
- 全校朝会などでの講話の内容を工夫し、子どもと教職員の道徳性を高める必要がある。
- 校長として、子どもと担任をつなぐ、地域と学校をつなぐための具体的な方策を持つ必要がある。

第6部会 教育課題③

（社会の変化に対応した教育）

1 主な協議内容

- 情報モラルを身に付け、コンピュータ等の情報手段を適切に活用できる子どもを育むために、どのような役割を果たしていくか。
- 全校体制で豊かな表現力とコミュニケーション能力を育てる外国語活動や国際理解教育に取り組むために、その推進体制をどう組織し、運営すればよいか。
- キャリア教育を全校体制で推進していくために、意識改革をどのように図っていくか。

2 課題等

- 情報モラルにかかわる家庭、地域を巻き込んだ取組をどのように設定していくかが課題である。
- A L Tに頼る授業から、校内研修を充実させるための職員の意識改革を図る必要がある。
- キャリア教育の視点で活動を見直し、目的意識を高めていく必要がある。

第7部会 教育課題④（健康教育）

1 主な協議内容

- 健康3原則（栄養・睡眠・運動）を意識したよりよい生活習慣の確立のために、どのようにリーダーシップを発揮するか。
- 学校における食育の充実を図るために、家庭や地域との連携をどのように図っていくか。
- プランと予算をいかに有効に活用していくか。

2 課題等

- 健康、食に関する教育は、学校だけでは限界がある。いかに家庭の力を引き出し、教育力を高めていくのが課題である。
- 行政、専門家との連携を図るためにも、家庭との信頼関係を築いていく必要がある。
- 学校評価などを活用し、達成できる目標を決めて、組織的に推進していく体制を作ることが大きな課題である。
- 継続的な食育へ意識改革が必要である。

第8部会 教育課題⑤

（特別支援教育，人権教育）

1 主な協議内容

- 個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進するために、どのように全校体制を組織するか。
- 教職員の人権意識や指導力を高めるには、どのように研修を充実させていけばよいか。
- 子どもたちの人権感覚を育むには、どのような手立てを講じればよいか。
- 6年間を見通した、共生の心を育む福祉教育を推進するために、教職員にどのように働き掛けていくか。

2 課題等

- 個別の教育支援計画の作成を全校体制で計画的に進めていくための推進役を育成する必要がある。
- 校内研修の内容を充実させるために職員の意識をどのように高めていくのが課題である。
- 教師主導ではなく、子ども同士の関わり合いの中で人権意識を高めていく必要がある。

第9部会 教育課題⑥

（学校，家庭・地域，異校種間の連携）

1 主な協議内容

- 地域の要望や期待を的確に把握し、地域の教育資源を生かした活動を進めるために、どのようにリーダーシップを発揮していくか。
- 学校と地域の双方向の関わりを実現するために地域との連携をどのように図っていくか。
- 連携活動を進めるための組織をどのように作るか。
- 幼保・小・中との連携を生かした教育活動の推進に向けて、全職員の意識をどのように高揚させるか。

2 課題等

- 教職員の地域連携にかかわる温度差が大きく、対応が難しい。
- 地域コーディネーター等の対応における経費的な面の保障が課題である。
- 連携の必要性を具体的に共有できる場の設定が難しい。

第10部会 危機管理

1 主な協議内容

- いじめ、不登校の効果的な未然防止のためにどのように校内支援体制を確立していくか。
- 自己有用感などを高める教育活動の活性化のために、どのように保護者、地域、関係機関等との連携を図っていくか。
- 自ら安全に行動する力を育む防災教育・安全教育を推進するために、家庭や地域にどのように働き掛けていくか。

- 家庭・地域と連携した危機管理・防災体制をどのように確立するか。

2 課題等

- 定期的な子どもの見取りと即時対応の両輪をいかに機能させるかが課題である。
- 保護者の意識をどのような手立てで高めることができるのか難しい。
- 県防災プログラムの確実な実施のための組織づくりが課題である。
- 地域間の防災教育の差に、学校がどのように対応していくかが問題である。